

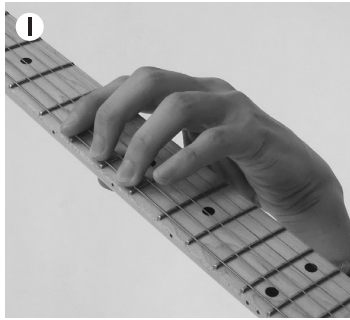
注意点1



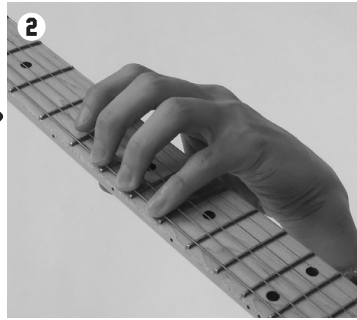
左手

手首を少しひねって 人差指を素早く弦移動!

まずは、左手の無駄の少ない弦移動について解説しよう。1小節1拍目を例に挙げると、小指による6弦8フレットの押弦時には、人差指が次に押さえる5弦5フレット上で待機しているようなイメージを持つことが大切だ(写真①&②)。この時、人差指だけを動かすのは大変なので、手首をやや身体の方にひねるようにするとスムーズに隣の弦に移動できるだろう。ただし、手首を極端にひねると、逆に無駄な動きが多くなるので注意すること。また、人差指は常に余弦のミュートを行なう【註】ため、押弦時には立てるのではなく、少し寝かせるようにすると良い。



1小節目1拍目の薬指による6弦7fの押弦時。続く小指の押弦を意識しておこう!



小指の押弦時に、すでに人差指を5弦上に移すと、弦移動をスムーズに行なうことができる。

注意点2



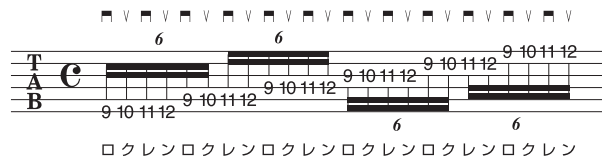
理論

4音区切りフレーズでは 4文字の言葉を当てはめよう

このメイン・フレーズの6連符フレーズは、すべて4音で区切る(弦移動していく)少し変則的なリズム・パターンになっている。このような4音区切りフレーズは、4文字の言葉を当てはめながら演奏すると、フレーズの流れを理解しやすいだろう(図1)。ただし4音区切りということで、誤って16分音符で弾いてしまわないように、1拍(4分音符)ごとにカウントを取るように心掛けてほしい。1&2小節目では途中で6連符から3連符へ符割りが変化するが、こういう箇所ではリズムが急にハシったり、モタったりすることが多い。ここでも1拍の長さを身体でしっかり感じ取っていると、正確なリズムで演奏できるだろう。

図1 6連符の4音区切りフレーズ

・メイン・フレーズ4小節目



4音区切りになるので、4文字の言葉(ロクレンなど)を当てはめると良い。

注意点3



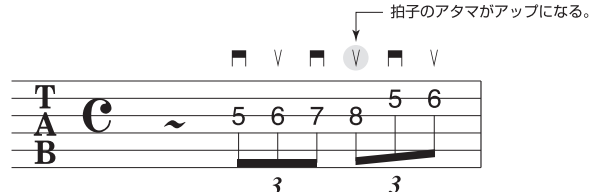
理論

オルタネイトをキープして 3連符フレーズを攻略せよ!

16分音符や6連符などが続くフレーズは、各拍子の1音目のピッキングがすべてダウンになるのでリズムは取りやすい。しかし、このメイン・フレーズの1小節目3&4拍目のように3連符が続く場合は、最初の拍子と次の拍子でオルタネイトの順番が変わるので注意が必要だ(図2)。このような3連符フレーズでは、最初の拍子を弾いている時点で、次の拍子の1音目は“アップで弾く”ということを意識しておくように心掛けよう。もし、ここを誤ってダウンで弾いてしまうと、オルタネイトの規則性が崩れてしまい、そのあとのリズムが乱れやすい。ピッキングの順番がルーズにならないように注意しながら演奏しよう。

図2 3連符フレーズのオルタネイト

・メイン・フレーズ1小節目3&4拍目



“4拍目はアップから弾き始める”ということを意識しておこう。